

日本神経化学会
2021年度評議員会議事録

日 時：2021年10月1日（金）13：20～14：00
会 場：オンライン Zoom ウェビナー会議
議 長：岡野栄之 理事長
進 行：竹居光太郎 副理事長
出 席：出席 88名、委任状 59名（評議員総数 252名、定足数 51名）
議 題：「新執行部からのメッセージと相互議論」

議事に先立ち、岡野栄之理事長より、総会にて発出した「奈良宣言」について主旨の説明があった。竹居光太郎副理事長より、本日の議題と論点が紹介された。

田中謙二理事（将来計画員会委員長）より以下の意見があった。将来計画員会と脳研究委員会との共同にてフラグシッププロジェクトとしてワーキンググループを立ち上げる予定。分子と疾患から踏み込んだものを積み上げ、今後、政策立案などにいつでも対応できる先導者を目指す。林（高木）朗子脳研究委員長からも、共同で進め行きたい旨、発言があった。

患者会、臨床との連携について以下の意見交換があった

竹居光太郎副理事長：沖縄大会では、患者団体とのつながりなども強化していきたい。

和中明生理事（大会長）：本会（奈良大会）でも、患者会からの参加依頼があり、特別参加いただく予定。他の大会では、患者会のブース設置など、患者様向けが充実してきている。

岡野理事長：この学会は、特定の診療科に偏ってないことが強み。臨床との連携強化していきたい。

望月秀樹理事（臨床連携委員長）：次回のNeuro2022では市民公開講座も予定。臨床の先生方にも当会にたくさん入会いただき連携を強化していきたい。

和中明生理事（大会長）：患者団体や一般の人は検索で情報を得ているため、本会ホームページもそれらの人達へ情報発信できるよう工夫してもよいかも。

等誠司理事（出版広報担当）：ホームページ全体の改革を検討しているのでその視点を併せて検討する。

連携パートナーを模索していくのもよいと思う。

小泉修一法人化推進委員長：フラグシップ立ち上げにあたっては、すごく長期的なもの、長期的なもの、短期的なものをバランスよく出していければと思う。

竹居光太郎副理事長より、これまでの意見ならびに提案に対し謝辞が述べられた。大変積極的な意見を多数伺ったことを踏まえ、理事会および委員会で、「迅速に」今後対応を考えていく。

また、岡野栄之理事長より、プログラムを作成いただいた和申大会長への謝辞が述べられ

た。現地開催でなかったことが残念であるが、オンライン開催で学ぶことも多く、今後の神経化学会の発展を推進していきたいとの結びの挨拶があった。

以上をもって、2021 年度評議員会は閉会となった。